

経営比較分析表（令和3年度決算）

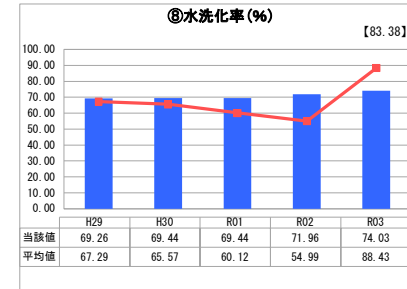
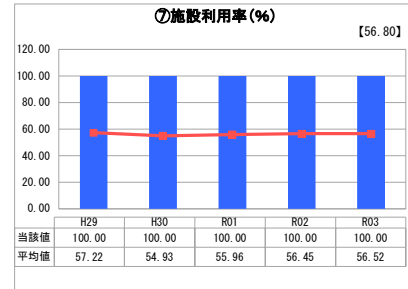
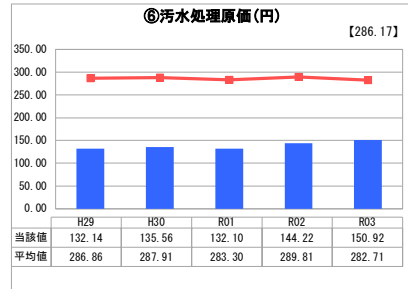
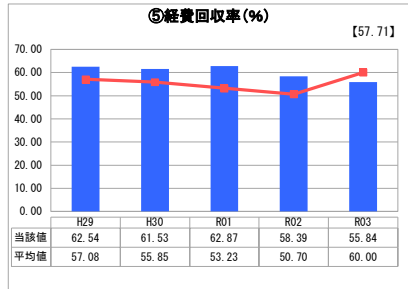
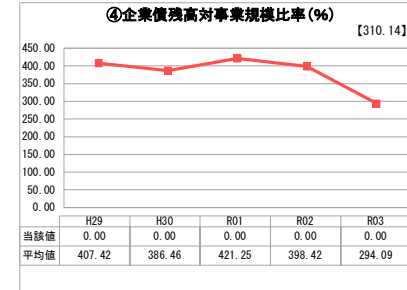
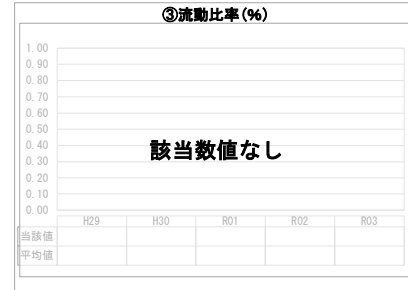
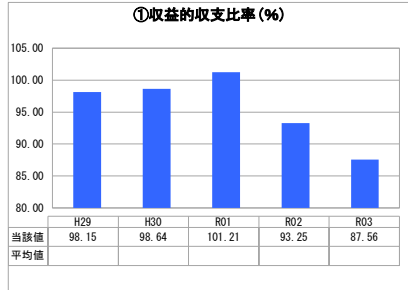
宮城県 大衡村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	38.87	100.00	3,500

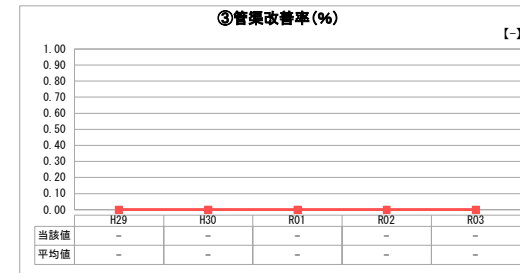
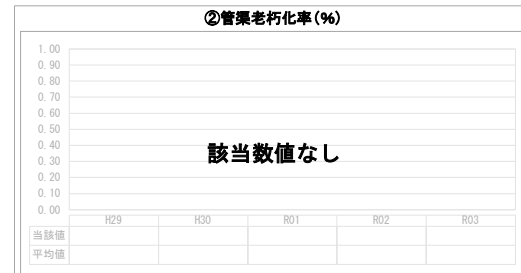
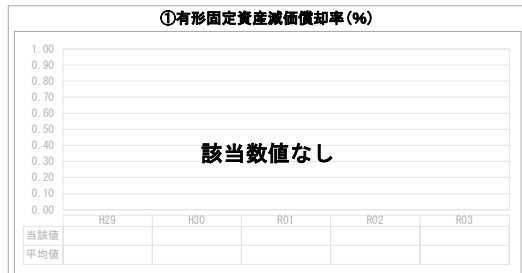
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,770	60.32	95.66
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,222	52.70	42.16

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
□ 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は100%を超えず、単年度の収支は赤字となった。経費回収率は55.84%で昨年度より低下している。浄化槽管理費が昨年度と比較して、増額していることが要因として考えられる。管理基数は昨年度より増加（令和3年度末で393基、前年度末比+10基）しているが、管理基数が増えたことによる使用料収入よりも、浄化槽管理費用が高額なため、このような現象が起きている。また、依然として一般会計からの繰入金（使用料以外の収入）に依存している状況にあるので、維持管理の効率化、軽微な修繕業務等については職員自ら行う等、経費の削減に努め経営改善を図る。

今年度、企業債残高対事業規模比率が0%となっているのは、償還に要する資金を一般会計等において負担しているためである。

汚水処理原価については、類似団体等平均値と比較すると安価な数値となっているが、将来に備え経営の見通しをたてて健全な経営に努める。

施設利用率については市町村設置型のため100%となっている。また、水洗化率についても毎年向上しているため、来年度以降も数値の向上を目指している。

2. 老朽化の状況について

大衡村の浄化槽事業は、令和3年度末現在で393基（昨年度比10基増）の管理を行っており、最も古い浄化槽は設置から26年が経過している状況で、今後も適切な維持管理を実施することで、施設の長寿命化を図る。

全体総括

分析欄でも記載したが、浄化槽管理費と使用料収入が比例していないため、①収益的収支率と⑤経費回収率の向上は、浄化槽管理の効率化を進め、管理費の削減を図る必要がある。

最後に、社会情勢の変化に的確に対応した事務事業の見直しや経常的経費の縮減などによる経営改革を進め、経営基盤の強化などを積極的に取り組み、より一層の経営健全化を促進する。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。